

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 88 号

令和6年9月発行
(2024年)

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次	P.1	北海道地区親睦会／佐藤繁先生退職記念祝賀会	P.5
天野学部長就任挨拶／佐藤繁先生退職	P.2	2024年三水会定期総会報告	P.6
資源化学研究室の近況報告	P.3	〃	P.7
〃	P.4	第16期三水会役員紹介／お知らせ	P.8



学部近況報告の菅野学部長



総会質疑の様子



2024年度三水会定期総会出席委員

学部長就任のご挨拶

水族生理学研究室教授

天野 勝文



2024年7月
月から海洋生命
科学部学部長に
就任いたしました
水族生理学研

究室（旧魚類生理学研究室）の天野勝文と申します。前学部長の菅野信弘先生は5期10年の長きにわたり、学部運営に尽力されました。その後を継ぐことになり、身が引き締まる思いです。

私は1997年4月に水産学部に講師として赴任しました。それ以前の卒業生の方は私のことをご存じないと思われまので、簡単に自己紹介をさせていただきます。それまで私は、魚類の内分泌、とくに性成熟を制御するホルモンの研究を中心に行っていました。当時の水産学部には、川内浩司先生、高橋明義先生、岩田宗彦先生など、魚類内分泌の研究を通してお世話になっていた先生方が多く在籍していたので、赴任に際してとくに不安はありませんでした。配属された魚類生理学研究室には、山森邦夫先生と奥村誠一先生の他に20数名の4年生が在籍していました。赴任早々、右も左も

わからないうちに、2年生と3年生の学生実習が始まったことをよく覚えています。講義は2年次必修科目の「基礎生理学」を担当いたしました。講義を受け持つのももちろん初めての経験でしたが、今にして思えば、試行錯誤の連続でした。山森先生には、内分泌の研究しか知らなかった私をフグ毒や生物リズムなど新しい研究の世界に導いていただきました。山森先生のご冥福をお祈りいたします。

赴任当時の学部長は、神谷久男先生でした。その後、児玉正昭先生、緒方武比古先生、そして菅野先生へと学部長は受け継がれました。児玉先生の学部長時代は、三陸から相模原への移転問題がたびたび議論され、今から思いかえしますといろいろなと落ち着かない不安な時期でした。緒方先生の時には東日本大震災が発生し、結果的に相模原に移転することになりました。私は陸前高田の海沿いに住んでいたため、大津波でアパートが流され、私物をすべて失いました。そのため、私自身は新天地の相模原で心機一転頑張ったような気がします。菅野先生の学部長時代には、新型コロナウイルスの影響でオンライン講義の実施を余儀なくされるなど苦難がありました

が、菅野先生がもちまへのリーダーシップを発揮されて困難を乗り越えることができたと感謝しています。

ところで、我が国の水産業は、資源の減少、沿岸水域の環境悪化などにより、非常に厳しい状況にあります。さらに、世界的な水産物需要の増加が進み、我が国では必要とされる水産物の確保さえ困難になることも予想されています。このような状況下では、多様な豊かな海洋の生物資源を対象として、それらの永続的かつ効果的な利用を目指す「海洋生命科学」の重要性が高まっているのではないのでしょうか。

海洋生命科学部を取り巻く状況は、けっして明るいことばかりではありません。ご存知の通り、国内では少子化が進行しています。当然のことながら、大学を受験する18歳人口も減少し続けています。これまで通りの学生の質を維持するためには、学部教育のさらなる充実化や就職支援の強化などはもちろんのこと、受験生の早期確保を意図した新しい入試方法の採用などが必要となると考えられます。三陸キャンパスを今後どのように教育・研究に活用していくかについても重要な問題です。学生の就職に関しましては、三水会

のご支援もこれまで以上にお願いたしたいと思います。

2008年に教授に就任後は、学部の運営面では教育委員長、FD委員長、JABEE対応委員長、学部入試実行委員長などを務めてきました。今後は、これらの経験を活かし、教職員の皆様のご協力を賜り、微力ながら学部の運営に全力を尽くす所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。最後になりますが、この執筆の機会を与えてくださいました高橋明義会長、長谷川一敏理事ならびに会報担当の内藤文隆副会長をはじめとした三水会の皆様に感謝いたします。

***** 無事定年退官 *****

応用生物化学講座

生物化学研究室 前教授

佐藤 繁

1984年1月、北里大学水産学部に助手として赴任しました。以後、学生さん教職員の皆さんに支えられながら、三陸で27年3か月プラス大震災後の13年、今年の3月に無事定年退官となりました。この場をお借りして、水産学部（現・海洋生命科学部）での40年を超える思い出の一部を紹介

します。当時の助手というポジションは、卒業式では駐車場の交通整理や会場のマイク係などの裏方を務めなくてはなりません。学部の事務長さんから電話がかかってきて開口一番「佐藤助手はおるかね」と、全く教員として扱われていませんでしたが、好きな研究に専念できるので文句は言えませんが。何年かかかって論文博士の学位を取得し、講師に昇進しました。今度は授業を受け持つことになりました。得意な科目は既に担当している先生が決まっています、毎年のようにアレやコレやれと命じられ、得意ではない科目を受け持つときは一生懸命勉強しましたが、学部生の皆さんには迷惑をかけたと思います。



四半世紀ほど前の写真です。

私の学部生時代の専門は、海洋生物の自然毒です。フグや有毒渦鞭毛藻などの生物の毒化機構は解明されておらず、国内外の研究グループがいまだに切磋琢磨して取り組んでいるテーマです。私の所属する海洋生物化学研究室の上司である児玉先生、緒方先生は、この分野で業績を上げており、

末席ながら私も、両先生の研究に参加する機会に恵まれました。最初は手あたり次第という感じで、様々なテーマにチャレンジしました。ある年、チュラロンコン大学獣医学部の先生が研究室にタイの淡水フグ試料を持ってきて、研究室に設置したばかりのフグ毒専用のHPLCで分析を頼まれました。タイで淡水フグによる食中毒が頻発していて症状はフグ中毒そのものである、とのこと。しかし分析してもテトロドトキシンは検出されません。もしかして、と思い麻痺性貝毒専用のHPLCに付したところ、見事に麻痺性貝毒サキシトキシンの巨大なピークが出現。すでに毒ガニやカブトガニなどの有毒生物ではフグ毒に加え麻痺性貝毒が主要な毒成分として報告されていました。フグ科魚類で確認されたのは初めてでした。すぐ水産学会で発表したいところ、他大学の研究グループに真似されてしまい、児玉緒方両先生と慌ててペーパーを作成して英文誌に投稿、こういうことが起こる世界だ、ということを実感しました。

1995年9月から翌年8月にかけて、この分野の第一人者であるロードアイランド大学薬学部の清水譲先生のもとで修行する機会に恵まれ、この経験がその後の研究に大きな手掛かりとなりました。手短かに言えば、清水先生が見つけていた、チオール化合物(SH基を持つ化合物)が麻痺性貝毒の一部の成分をサキシトキシンの還元する反応機構を、帰国してから資源化学研究室の酒井隆一先生のご助力のもとで解明。この発見に基づき、毒分子とタンパク質の結合体(抗原)を作成し実験動物に接種して、殆どの麻痺性貝毒成分に親和性を示す抗体を得ることに成功しました。これまでマウス試験に頼ってきた貝毒分析の代替法の第一候補として、この抗体を用いる貝毒分析用のELISA法は現在、新日本検定協会から市販されています。

相模原キャンパスに移転後は、フグ毒テトロドトキシンの簡易分析法の開発に、学部生、修士課程の皆さんとともに取り組みました。すでに東北大学の研究チームによってテトロドトキシンとチオール化合物の結合体の作成法が報告されていたため、さきの経験をもとに割合すんなりと新規抗原を作成に成功、得た抗体が多数のフグ毒誘導体に親和性を示すことも確認しました。フグなどの有毒生物には様々なテトロドトキシンの類縁体が含まれていますので、この抗体をベースに作成した簡易分析法は食の安全性の確保に役立つだけでなく、毒の真の起原生物の解明のための強力なツールとなると考えています。

ここまで来て、めでたく隠居の身となりました。やり残したことは多々ありますが、私よりもエネルギーが豊富で優秀な、後任の高田先生に引き継ぐことができたので安心しました。今後の先生のご活躍と研究の進展に期待します。

***** 資源化学研究室の近況報告 *****

資源化学研究室 講師
安元 剛

私は2010年に本学部へ赴任しましたが瞬く間に2024年となりました。資源化学研究室では様々な研究テーマに取り組みさせて頂いており、相模原キャンパスに移転後も充実した研究生活を過ごしております。近況報告との事ですので、僭越ではございますが、私の研究テーマのうちサンゴ礁保全への取り組みについて紹介させていただきます。

昔の豊かなサンゴ礁を取り戻したい！
私は沖縄出身で、小さい頃からよく海に行って遊んでいました。父がサンゴ礁に暮らす魚のスズメ



ダイの生態について研究をしていることもあり、アオサンゴで有名な石垣の白保海岸などにもつれて行ってくれました。私の記憶にある海はサンゴが非常に多く、今とは大分違いますが、父が幼少の頃はもっと豊かな海が広がっていたそうです。沖縄の一部の離島では海に入ると「おかず取り」といったりしますが、おかずを取りに気楽に海に入っていたようです。しかし、世界中の海と同じように、沖縄の海もどんどんサンゴが減少し、同時に潮間帯に暮らす底生生物も居なくなってしまうています。沖縄の食用ウニはシラヒゲウニという種類ですが、近年は漁獲高がゼロになり、自主禁漁に追い込まれています。地球規模の気候上昇やエルニーニョ現象による海水温上昇、二酸化炭素上昇による海洋酸性化などがサンゴ礁生態系の衰退の要因としてよく話題に上りますが、地球に文句言っても返事は返ってきません。近くで海の変化を見てきた個人的な感覚からすると、人間活動の影響の方が大きいのではないかと感じています。今で

もサンゴがいるのは人の影響がすくないところですよ。私は、何故豊かな海がなくなってしまったのか？どうすれば昔の海を取り戻せるのか？ということが知りたくてサンゴの研究を始めました。

サンゴの骨格を作るのをリン酸イオンが邪魔をする？

私たち脊椎動物の骨はリン酸カルシウムという物質で作られますが、サンゴの骨は大理石と同じ炭酸カルシウムできています。このような生物が鈹物を作る作用を「バイオミネラリゼーション」と言いますが、海の中で海洋生物が骨を作るメカニズムはまだまだわかっていないことが沢山あります。例えば、骨格となる炭酸カルシウムを作る原料となるカルシウムイオンや炭酸イオンが、どのように生物体内で輸送され、濃縮されるのかといった根本的なメカニズムもわかっていません。私は、海水と生体アミンを混合するだけで、海水に含まれるカルシウムイオンと大気中の二酸化炭素から炭酸カルシウムを作る簡易的な反応を発見しました。この方法を使っているいろいろな物質を使って炭酸カルシウムを作ってみてわかったことがあります。それは炭酸カルシウムを作る反応は非常に脆弱な反

応であるということです。わずかな物質の混入でその結晶系や結晶量に変化してしまいます。特にリン酸イオンを入れると途端に炭酸カルシウムの結晶はできなくなってしまうました。そこでミドリイシという種類の造礁サンゴの幼生を使って、リン酸イオンがサンゴの骨格形成に及ぼす影響を調べたところ同様に炭酸カルシウムが作られなくなりました。その後、リン酸イオンが炭酸カルシウムの骨格表面にくっついて骨格が伸びるのを邪魔してしまうことがわかりました。サンゴは骨格を細胞外でつくる生物であるため、海水に含まれるリン酸イオンの影響を受けやすいのです。



サンゴ礁保全への取り組み

サンゴ礁の海の砂は白いのはご存じと思いますが、これは有孔虫、貝、サンゴまたはウニなどの炭酸カルシウムの骨格を持つ生物

の死骸です。リン酸イオンの炭酸カルシウムにくっつく性質から考えて、沿岸の砂にくっついていることが推定されます。実際に、石垣島と

西表島の間に位置する石西礁湖という日本最大級のサンゴ礁海域で、砂に蓄積したリン酸イオンとサンゴ密度を環境省の石西礁湖自然再生協議会の協力のもと比較しました。その結果、砂についてリン酸イオンの量とサンゴ密度には負の相関関係があることがわかりました。また、サンゴ白化との間にも正の相関関係があることもわかりました。この海域では、エビ養殖や牛の畜産業がリン酸イオンの起源と推定され、陸からの影響を削減するための取り組みが必要不可欠ですが、多くのステークホルダーの協力が欠かせません。昨年、環境省の石西礁湖自然再生協議会の一環として「陸と海の繋がりワーキンググループ」を発起人として立ち上げ、石垣自然保護官事務所、石垣市、竹富町および地域住民の方々とともにこの陸からの影響をへらし、サンゴ礁回復を目指した取り組みを開始しました。早速、竹富町でも堆肥センターの設置に向けた検討が始まっています。陸地からどのようにリン酸イオンが海域に広がるのか、サンゴ密度の低下を引き起こすメカニズムについても引き続き調べていきたいと思っています。

三水会北海道親睦会

FA9期 安藤 義秀

2月17日、4年ぶりの親睦会が三水会の長谷川理事を始め大阪や東京からのゲスト参加者や元教員の荒井先生も含め総勢21名が札幌市に集まり開催されました。

今回のサプライズゲストとして参加し、講和してくれた方は現北海道日本ハムファイターズ社長兼オーナー代行の小村勝さんで7期生の福田さんの前任のお仕事が北海道日本ハムの北海道ボールパーク代表取締役社長だったためその伝手で実現しました。

小村社長の講和はファイターズの現況や今年度の予想をデータを



交えながらお話しくださいましてとても興味深く拝聴させていただきました。ホーム球場であるエスコンフィールド入場数がゲーム開催時と同じぐらいの来場者があり今年3年連続の最下位であれば新庄監督と一緒に心中するとおっしゃっていました。

球場内のインフラについても、エスコンは全ての施設がキャッシュユレスで運営してるそうです。また、日本ハム製造のシャウエツセン入りホットドックを650円で売ってるそうです、エスコンのオープン前に社長を含めて社内協議をした際、現金決済の可否や物品価格設定で社長が反対の意を唱えたそうですが最終的にキャッシュユレスや価格設定を現状に決定したそうですが、球場内の売上は予想以上に上がり、ホットドックも球場内で1番の売上品になったとお話しされてまして、ターゲットの絞り込みとニーズを如何に把握するかが事業の成果に繋がるとを教えていただきました。

その後、懇親会に入り高齢な会員が多いこともあり近況を始め血糖値や服薬の話で多いに盛り上がっていたようです。私を含めこの親睦会を楽しみに待ってる会員も多く札幌の長い夜が更けていきました。

翌日ファイターズ球場のエスコンフィールドを訪ね、球場関係者のとても偉い方に同行していただき、一般の方では入場できないような施設も超超VIP待遇で見学させていただきました。

今回の北海道親睦会も有志委員の方々がとても骨をおつけてくださいます、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

参加者は次回の再会を確認しながらそれぞれの帰途に着いたようです。

***** 佐藤繁先生退職記念祝賀会 のご報告

水産生物化学研究室 卒業生
澤田一路 (1996年度)
長谷川桂太 (2017年度)

令和6年3月16日(土)に佐藤繁教授の退職記念祝賀会が東京ガーデンパレスで開催されました。会場には緒方武比古先生、渡部終五先生をはじめ佐藤先生と縁の深い先生方、生物化学研究室(旧・水産生物化学研究室)出身者のほか、約80名の卒業生・関係者が集いました。佐藤先生とともに生物化学研究室を運営されてきた高田健太郎先生に司会を担当いただき、

渡部先生、緒方先生の祝辞、海洋生命科学部学生課の池原様の乾杯によりはじまりました。その後は先生ご着任当時から多くの卒業生及び関係者と歓談されました。会の後半では卒業生5名からそれぞれ祝辞があり、三陸キャンパス、相模原キャンパスでのエピソードが紹介され、先生も当時を振り返り楽しんでおられました。佐藤先生は今後も非常勤で海洋生命科学部の講義を担当されるとの事です。最後に、本会の世話人を務めてくださいました高田健太郎先生、そして準備・運営に携わってくださいました皆様へ感謝いたします。



「2024年度

三水会定期総会報告」

2024年度三水会定期総会が5月18日（土）午後3時より、北里大学白金キャンパス薬学部2号館2階2201講義室において開催されました。

総会は代議員総数49名に対し、出席47名（本人出席36名、委任状提出11名）欠席2名となりました。

冒頭、議長団の選出では議長に水産食品学科13期の源裕次氏、続いて議事録署名人には水産増殖学科5期の奥村誠一氏、水産増殖学科5期の神取政司氏が選出されました。

その後議事に入り執行部より1号議案の2023年度事業報告及び収支決算報告が行われ、続いて2号議案の監査報告が行われました。そして原案通り承認されました。

引き続き3号議案の2024年度事業計画案及び予算案の説明があり、原案通り承認されました。

次に4号議案の第16期代議員選任について説明があり、原案通り承認されました。続いて5号議案三水会規約改正についての説明があり、原案通り承認されました。

総会終了後、同会議室で菅野学部長より海洋生命科学部の近況等

が紹介されました。

その後、薬学部2号館1階学生食堂にて懇親会を開催し、久々に互いの交友を深めました。

『2023年度事業報告』

1. 会報の発行

同窓生の動向、海洋生命科学部の現状及び各種情報を含む会報を、2023年9月と2024年3月の2回発行した。

2. 三水会ホームページの運営管理
会員に対し本会の各種情報を提供した。

3. 会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努めた。

4. 親睦会の開催

・ 関西地区会員を主な対象とした関西地区親睦会を、2024年2月4日（日）大阪市にて開催した。
・ 北海道地区会員を主な対象とした北海道地区親睦会を、2024年2月17日（土）札幌市にて開催した。

5. 同期会等の助成

研究室同窓会や同期会等、卒業生の集会費用の一部について助成を行った。

6. 懇談会の開催

大学教職員及び在学生等との懇談会、意見交換会は、開催を見送つ

財 産 目 録

2024年3月31日現在

*一般会計（円）

預金等					
みずほ銀行	三ツ境支店	普	1159267		475,034
山梨中央銀行	小沼支店	普	214393		5,284,628
みずほインバスターズ証券	新宿支店	MMF			607,043
現 金					18,364
合 計					6,385,069

*特別会計（円）

(1) 事業積立金

みずほインバスターズ証券	新宿支店	MMF			1,000,000
--------------	------	-----	--	--	-----------

(2) 大学助成金

ゆうちょ銀行	〇八八	088	普	15963761	151,241
--------	-----	-----	---	----------	---------

※一般会計「準会員活動助成」の対象とならない北里大学や準会員以外の団体等に対する助成を目的とする積立金

監 査 報 告 書

三水会規約第18条に基づき、2023年度（自・2023年4月1日至・2024年3月31日）提出された収支決算書の各事項について監査を行った結果、その内容は適当なものと認めます。

2024年4月4日
監事 西尾 徹

2024年4月9日
監事 材津 裕

2023年度収支決算書

2024年3月31日現在

支出の部			収入の部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	4,400,000	3,672,891	1. 部会助成金	4,271,000	4,271,000
(1) 会報の発行費	2,650,000	2,623,713	2. 会報郵送料補助	856,000	856,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	183,046	3. 前年度繰越金	6,962,210	6,962,210
(3) 会員現況把握費	150,000	156,800	4. 預金利息	90	72
(4) 親睦会の開催費	400,000	400,000	5. 雑収入	10,000	10,000
(5) 同期会等助成費	200,000	59,000			
(6) 懇談会費	100,000	0			
(7) 準会員活動助成金	200,000	20,000			
(8) 就職ガイダンスの開催費	250,000	180,332			
(9) 漁船海難遭児育英会寄付	50,000	50,000			
(0) 水産学部卒後30年集い検討会費	200,000	0			
2. 運営・管理費	2,400,000	2,041,322			
(1) 印刷・通信費	450,000	326,458			
(2) 会議費	700,000	664,505			
(3) 総会費	300,000	243,390			
(4) 事務局費	900,000	806,969			
(5) 慶弔費	50,000	0			
3. 予備費	5,299,300				
4. 次年度繰越金		6,385,069			
合 計	12,099,300	12,099,282	合 計	12,898,000	12,748,031

2023年度予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	4,450,000	1. 部会助成金	4,458,000
(1) 会報発行費	2,700,000	2. 会報郵送料補助	875,000
(2) 三水会HP運営費	200,000	3. 前年度繰越金	6,385,069
(3) 会員現況把握費	150,000	4. 預金利息	31
(4) 親睦会開催費	400,000	5. 雑収入	10,000
(5) 同期会等助成費	200,000		
(6) 懇談会費	100,000		
(7) 準会員活動助成金	200,000		
(8) 就職ガイダンス開催費	250,000		
(9) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
(10) 水産学部卒後30年の集い検討会費	200,000		
2. 運営・管理費	2,400,000		
(1) 印刷・通信費	450,000		
(2) 会議費	700,000		
(3) 総会費	300,000		
(4) 事務局費	900,000		
(5) 慶弔費	50,000		
3. 予備費	4,878,100		
合計	11,728,100	合計	11,728,100

た。

7. 準会員活動助成
準会員活動費の一部について助成を行った。

8. 就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生を講師に迎え、就職ガイダンスを海洋生命科学部在生を対象に2023年10月19日(木)に開催した。今年度は受講生との交流会等は行わず、粗品を進呈した。

9. 漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている公益財団法人漁船海難遺児育英会

に対し寄付をした。

10. 卒後30年の集い等検討委員会の開催
水産学部卒後30年の集い及び各種事業についての検討委員会は、開催を見送った。

『2024年度事業計画』

1. 会報の発行
同窓生の動向、海洋生命科学部の現状及び各種情報を含む会報を2024年9月と2025年3月の2回発行する。

2. 三水会ホームページの运营管理
会員に対し本会の各種情報を提

供する。

3. 会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努める。

4. 親睦会の開催
各地区の会員を対象とした親睦会を開催する。

5. 同期会等の助成
研究室同窓会やクラブOB会等、卒業生の集会費用の一部を助成する。

6. 懇談会の開催
大学職員、在学生及び卒業生等との懇談会を開催し意見交換を行う。

7. 準会員活動助成
準会員(個人もしくは団体)活動経費の一部を助成する。

8. 就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生を講師に迎え、海洋生命科学部在生を対象に就職ガイダンスを行う。

9. 漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行う。

10. 水産学部卒後30年の集い等検討委員会の開催
水産学部卒後30年の集い及び各種事業についての検討委員会を設置する。

山根 竜二	北吉 直子	澤田 一路	加藤 紳	小野 要	田中 和義	源 裕次	越川 成二	柳澤 明美	美野 朋隆	堀内 岳郎	河村 尚之	奥村 誠一	稲沢 昌茂	水鳥 純雄	佐藤 敏行	鈴木 潤一	代議員(17)	磯山 直彦	北島 康弘	内藤 文隆	高橋 明義	長谷川一敏	理事(4)
2012卒	1998卒	1997卒	1994卒	1993卒	1992卒	1988卒	1987卒	1982卒	1982卒	1981卒	1981卒	1980卒	1980卒	1978卒	1978卒	1978卒		1991卒	1990卒	1983卒	1980卒	1978卒	
37MB	23FA	25FF	19FA	18FF	17FA	13FF	12FA	7FA	7FF	6FF	6FF	5FA	5FF	3FA	3FF	3FF		16FA	15FA	8FA	5FF	3FA	

第20期全学同窓会理事・代議員名簿
*20期任期は2024/5~2027/5

三水会第16期理事、監事、代議員、及び顧問

理事 (20名)

【会長】	高橋 明義	5FF
【副会長】	内藤 文隆	8FA
【副会長】	越川 成二	12FA
	長谷川一敏	3FA
	佐々木尊司	5FF
	藤田 伸治	7FF
	中野 清隆	10FA
	大坪 孝志	14FF
	及川 善裕	14FF
	北島 康弘	15FA
	加藤 茂基	15FF
	磯山 直彦	16FA
	増田 孝文	18FA
	川上 由紀	24FA
	高坂 友和	24FF
	重光 康宏	25FF
	安孫子信吾	28FF
	松本 典子	29FM
	大地 晴佳	34FM
	福士 洋隆	39FB

監事 (2名)

	材津 裕	5FA
	西尾 徹	14FF

代議員 (28名)

	佐藤 敏行	3FF
	鈴木 潤一	3FF
	藤森 年三	3FF
	水鳥 純雄	3FA

	石井 美華	4FA
	奥村 誠一	5FA
	神取 政司	5FA
	稲沢 昌茂	5FF
	河村 尚之	6FF
	堀内 岳郎	6FF
	岡村 博登	6FF
	美野 朋隆	7FA
	柳澤 明美	7FF
	朝日田 卓	9FA
	水石 博彦	10FA
	徳江 喜一	11FF
	源 裕次	13FF
	大場加奈子	15FF
	田中 和義	17FA
	小野 要	18FF
	加藤 紳	19FA
	北吉 直子	23FA
	高原 陽子	24FA
	澤田 一路	25FF
	川内 絵美	36FM
	吉田 早紀	36FM
	吉永 昌弘	37FB
	山根 竜二	37FB

顧問

	伴 圭司	1FA 《2018年4月就任》
	大野 良樹	1FA 《2021年4月就任》
	長屋 信博	1FA 《2024年4月就任》

“ 掲 示 板 ”

■ 第36回研究奨励賞応募者募集について

北里大学同窓会では、北里大学卒業後15年未満の研究者を対象に、研究奨励賞の募集を行っております。

・第36回募集対象学部:海洋生命科学部・獣医学部

・応募資格者 (研究者個人)

北里大学卒業後15年未満かつ会費納入者 (卒後11年目以降は年会費納入済みであること)

・奨励金額:1 研究課題に対して30万円

・応募締切日:2024年11月末日

応募要項と応募用紙は、ポスター・北里大学同窓会のHPをご確認ください。

■ 三水会九州沖縄地区親睦会開催のご案内

開催日時:2025年2月8日 (土) 午後6時

開催場所:バイキング居酒屋リオ (沖縄県那覇市松山1丁目34-3 2F)

内 容:1 【講演会】シーホースウエイズ (株) 代表:加藤紳氏 (水産増殖学科19期)
演題『タツノオトシゴと生きる』

2 【懇親会】

会 費:4,500円

申込方法:okinawa5008@gmail.com 平本愛明まで 締め切り:38名に達するまで

*問い合わせについて okinawa5008@gmail.com 平本愛明まで

編集後記

今年度は全学同窓会も新会長が選出され、新たな体制でのスタートとなりました。大学も理事長、学長が新しくなり、双方とも北里大学の同窓生となりました。また、長年三水会会長を務めていただきました高橋会長はこの度、副理事長の重職に就くこととなりました。大学、同窓会ともに大きな節目を迎えております。今後はますます会員の皆様のご協力とご指導をいただきながら、三水会といたしましてもこの機にさらなる親睦の輪を広げて世代を越えたつながりを作っていくたいものです。地震や台風などの災害も多い近年だからこそこれらのつながりはより大切なものとなると思います。